令和6年度 上田市立清明小学校 自己評価シート

総括担当: 教頭

学校教育目標		めざす子どもの姿(中期的目標)		総合評価											
「清く明るく豊かな心で進んで学ぶ子どもの育成」 ・心も体もたくましい子ども ・自分や友だちを大切にできる子ども ・自ら学ぶ子ども		①自主: 豊かなかわりやさまざまな体験を通して、自分で気づき、よく考えて自らたくましく行動できる子ども ②豊かさ: お互いに認め合う中で自分に自信を持ち、友とのかかわり合いを大切に、共に学習や生活を楽しむことができる子ども ③学び: 自ら見つけた課題を、友と考えをつなぎながらめ合いながら追究し、学びの楽しさや高まりを実感できる子ども		①教室での授業や学校行事、学年行事において、子どもたちが主体となって考え発信したり、企画し実行したりする場面を設定し、子どもたちが自ら動く活動を大事に取り組んできている。学年によってできることに違いはあれど、子どもたちが意欲的に取り組んでいくための学習環境をつくっていくことを継続して取り組みたい。また、生活科や総合的な学習の時間については、なかなか活動の広がりや想定した活動ができていない状況もあるため、教師側の動きを活性化させたい。 ②互いを認め合うために、教室環境を工夫したり、授業や活動の工夫を教師が考えて取り組んだりしており、教室を楽しんでいる児童が多い。反面、学校や教室に足が向かない児童もいる。学校・教室・友だち・担任とのつながりを大事にしながら、生活の基盤づくりを進めたい。 ③大きな公開授業も予定されているが、職員研修を位置づけたり、先生方の自主的な授業公開で学び合ったりしながら、めざす子どもの姿に近づけるよう取り組んでいる。研究主任から、先生方の良い取り組みが発信され、授業改善を進めている。2学期の大きな公開授業も軸に、学びの楽しさや高まりを実感できる授業づくりを推進したい。											
		今年度の重点目標		成果と課題		A	B	C	D	改善策・向上策					
		1	一人ひとりの個性を生かし、多様性を包み込む学級・学校づくり (自主・豊かさ)	学級内の友達「らしさ」を認め、お互いを思いやるような声かけが見られるようになってきた。個性を生かす場の設定が課題。			○			自ら進んで取り組む姿とその良さの共有。個々の得意を活動の中に位置づけることで、互いに認め合い、自分らしさを自信を持って発揮していくことにつなげたい。					
2	「学びの主体者」としての子どもを育てる「ふるさと学習」の充実 (学び)	学年に応じて、身の周り学校の周りの素材に目を向け始めた子どもたち。子どもたちの学びが深まっていくための支援のあり方を検討共有したい。				○		地域の「ひと・もの・こと」とつながるには、教師がまずつながってみたい。子どもたちの思いにアンテナを高くし、自ら「ひと・もの・こと」とつながってみたい。							
対象		評価項目		評価の観点		成果と課題		A	B	C	D	改善策・向上策			
重点目標	1 自主	「ふるさと学習」の推進		「ひと・もの・こと」と関わったり、実際に体験したりする活動を仕組むことができた。		教科の学習の中で、見学や体験を行ったり、現地で携わる人のお話を聞いたりすることで、子どもたちの活動に深まりがあった。学年学級の状況により、活動の立ち上げに苦慮する点が課題。				○		地域に出てみることはもちろん、子どもたちの日常会話や活動の中にあるヒントに敏感でありたい。各学年の取り組みを共有し視野を広げ、教師も一緒に学び深め楽しむことを大事にした。			
		児童会活動、係活動、靴揃えなどへの取り組みと成功体験の累積		子どもたちが、気づき、考え、自ら行動するような場を仕組むことができた。		クラスで課題を共有し、子どもたちの声で活動が展開されることで、意識付けがなされ、習慣化されてきている。教師主導でなく、子どもたちが自分事として考える場を作りたい					○		子どもたちから出てくる思いにしっかりと耳を傾け、一緒に悩み、考える姿勢で、子どもたちと向き合う。集団の中で生活することで起きるトラブルや問題を、チャンスとらえて、子どもたちが主体として考えていく場を大事にした。教師と一緒に悩み考え、解決策を見いだして、活動に取り組み、振り返る。子どもたちの成功体験を支えたい。		
		人権同和教育の日常化		互いに認め合い、共に学び合うよさを感じられる活動を仕組むことができた。		互いを思いやる言葉が出たり、友だちの良さに目を向けたりして、認め合う姿が見られてきている。ふとしたときに発する鋭い言葉や態度について考える場を大事にした。						○		鋭い言葉や態度に対し、即時その場で指導し、やり過ぎてしまわない。見逃さない大人の存在が、子どもたちの安心感につながるようにしたい。	
	2 豊かさ	挨拶の充実と思いやりの心の育成		挨拶や温かい言葉を大事にした生活指導や授業を行った。		授業や日常の言葉づかいを大事に指導し、顔を向かい合わせて交わす挨拶の良さを感じている子どもたち。自分の思いをうまく表現できずに、言葉や行動につなげてしまう点が課題。					○		表現しきれない子どもたちの思いをしっかりと聞き取る姿勢を大事にした。関係づくりのベースとなる挨拶や温かい言葉も引き続き指導していく。		
		話し合い活動の充実		子どもたちが一人で考えたり、互いの意見を共有したりする場面を設け、自信を持って表現できるよう支援した。		子ども同士で話し合いながら意見をまとめていく姿も見られてきている。が、自分の思いを表現するのに抵抗があったり、発言する児童が偏ったりする。素直に表現できる環境づくりが課題。						○		子どもたちが「話したい・伝えたい」と思う場の設定を大事に、授業展開を考えていく。学習問題や学習課題を、子どもたちの「解決したい」「なんとかしたい」という気持ちをかき立てるものにしていきたい。	
		学習習慣の形成		腰骨をたて、目・耳・心を使って話を聞き合う、学習に向かう姿勢を意識した指導を行った。		聞く・話すを意識して、取り組む姿が増えてきた。意見に対する反応の仕方についても指導し、違う意見に対して批判的な言葉や態度は減ってきた。話の聞き方について指導を継続したい。						○		授業や日常で、相手の話を聞くときの姿勢については継続的に指導する。良い姿を賞賛し、位置づけた。	
	3 学び	学習課題や学びの共有		子どもの言葉で課題を位置づけ、話し合う活動や考えを共有する場を設けて、学習の成果を実感できる授業を行った。		子どもたちが課題に向かって意欲的に取り組むことはできてきたが、自ら課題を位置づけていくことの難しさを感じている。学習の成果の実感についても考えたい。						○		「自ら課題を位置づける」ための、授業展開や問題の提示の仕方、どんな言葉を発問として子どもたちに投げかけていくのかを、教材研究の中心に据える。学習と生活のつながりも意識したい。	
		探究的な学びの場		「ふるさと学習」(神樹の時間)では、子どもたちがが発見し、実際に体験したり、粘り強く追究したりして、学びにのめり込むような場を設定した。		学習のつながりを大事にし、「もっと〇〇したい」の振り返りを位置づけ深めようとする姿が見られた。子どもの願いを受け止め、深めたり広げたりしたい。							○		子どもたちの思いをとらえる。子どもたちの学びのタネを蒔く。子どもたちと一緒に学びに没頭する。教師と一緒に楽しんで学びを深める意識をもって、子どもたちに向き合う。

○評価基準 A・・・達成できた B・・・おおむね達成できた C・・・やや達成できなかった D・・・達成できなかった